

地錦抄附録

三

卷之三

花木乃類

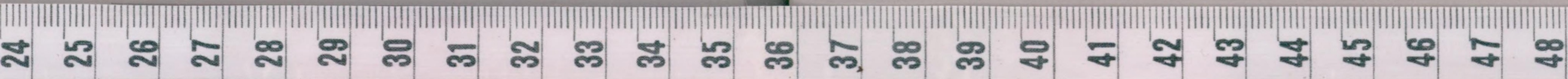
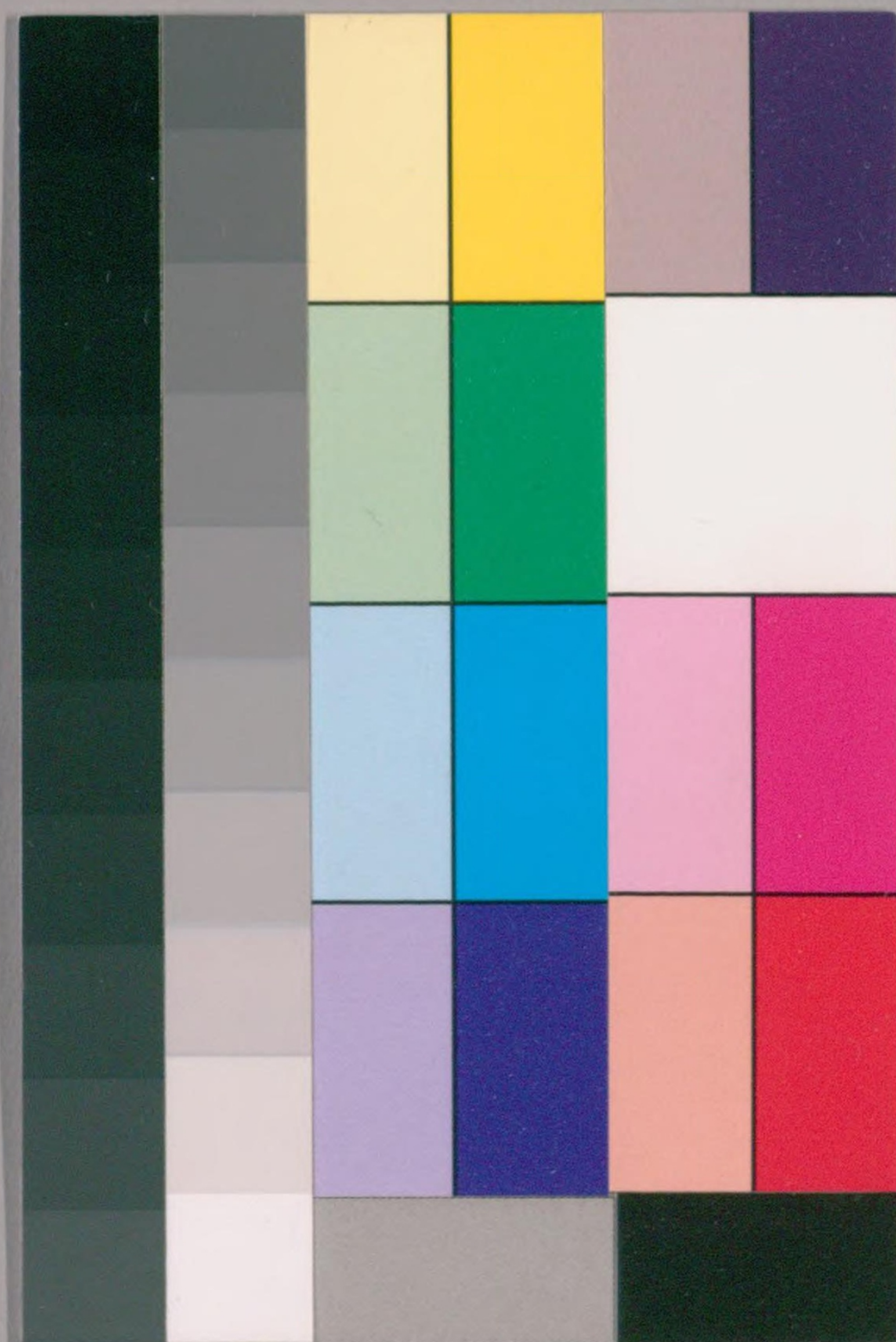
十八種

花形色付

草木異國ヨリ

渡來ル年記

85



国立国会図書館 請求記号 851-5
タイトル『広益地錦抄 8巻』

ガラス使用

地錦抄附録卷之三 目録

△花木之類

若木 不斷櫻
鹿兒島椿
阿蘭陀白椿
朝霧椿
源氏車
紅車

朝鮮椿
玉柏椿
阿蘭陀紅椿
梅の風山茶花
隠篋
十條のぼり

吉田待郎氏

寄贈本

識
書
印
此



よりりりーもや〜笑
花ひこく小やんかろり又
又六月まほふさ芽め
とくさたよさ多くはく
友も繁多くもさうて
春れ花よりとささる
〜とくらしめたり〜秋
着芽ゆ〜とささ〜山
梅子梅木ーと〜と
は〜とめのかさる

阿蘭陀白椿

花小のらんわ
花あやれ花の

中やぞいひや〜かさ
こ〜こ〜

阿蘭陀紅椿

花形もくあ
もわんあ白

の〜と〜と〜と
〜さ〜た〜と〜と
〜一筋づ〜と〜と
まん中に垂〜と〜と
く小やん〜と〜と

阿蘭陀花

花形よくさ
大やん白地か

おねの〜と〜と〜と

也綿抄付録卷三

鹿兒島椿

花せんやう盛
あげね〜と〜

〜と〜中やんかあ
〜と〜白やび入る
〜と〜まもあつと花形
ま〜お花様とかかり
と〜と〜と〜と

玉柏椿

花形よく花
は〜と〜と〜と

〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と

〜と〜山茶花葉花中
〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と

朝霧椿

花形よく花
う〜と〜と〜と

〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と

三



夕の霞をたけのど
 けみりもさう一葩づ
 紅白さしませのど
 かりもあつらんべにの
 しくるもさう又新津
 のまやうなまあり花
 よくもさうさう
 花不腰葉あり花盛の
 叶はむふかくはさう
 ちりもさうさう

花錦抄

花形さうまた

源氏車

みる車さう
 さりもあ乃新
 しくも花風車
 ぶさうさうさう
 ありさうさうあり花
 のはつりつ白くさう
 かわり月さう
 花形源氏車
 と白めを乃
 色々花あふ月咲
 花ついで 花しほつ
 とりもあ利

源氏車

花形源氏車

花ついで

花しほつ

のどくさうは花の後
 うさのゆつてさうの
 くさうさう三月さう
 と向叶に開くさう
 さうさうさうさう
 さうさうさうさう
 さうさうさうさう
 さうさうさうさう

南京柘榴

花本紅いさ

さうさうさうさう
 花さうさうさう
 極て花さうさうさう

葉秋花さうさう
 葉めく花いさ花
 花くさうさうさう
 色白くはついでの花
 さうさうさうさう
 花くさうさうさう
 さうさうさうさう
 さうさうさうさう
 さうさうさうさう

有通

花月中山花

花月中山花
 の山花さうさう
 さうさうさうさう



より一実とつれをさぐり
ろのどくく又六月終り
をも受初くと秋末まで
ほく花受和を手に
朝鮮きくはとさう

南京栗

は種の実あり
小木にきて花
多く受実のほく月
比花受て又七八月比
受て実をとりよ

柘櫚

木も葉も柘櫚
似く実のかさちも

葉は黄楊に似て赤
く対するも実をさうて
柘櫚のどくく田前の小枝
白く開きて白花紅実
同時に葉をた下り付
まはししくはゆさぬ
に木の心は固くを春て
りよ実をさぐり九月比
赤くさうさく実をわり
さすさうて実をさす
た戸よりけ木にやうに
汁多くわらぬ糖まを

柘櫚のどくく食
く味は初んがのどく

金銀木

花は悉冬花
のどくく花受

初めは白く一二日あるて
葉をさうらた金銀花
まどくくくは月受実
のうく花葉草れどく
又月末さうらり赤く
又づくと七月まどく
われどく又なれをさ
る家さすさうに美

木の心は固く汁をおろ
さく食はさくはに木の心
をさくわらぬをさうり
さ鉄を採取とさるより下
りさく葉は下の葉は取て
えんとさく葉はかめらる
けをたためたせもさくさ
ささうりとかの紀要の機
通の種葉をさくたをさ
も下馬のり思ふか
ぬが木の心は固く汁を
こおし一はさくさく





み木ぶらん様

甚愛にかはせしき養葉か

花多し

飛ひなる物あり

藤空木 ふぢうらみ 木も花もあつらひ

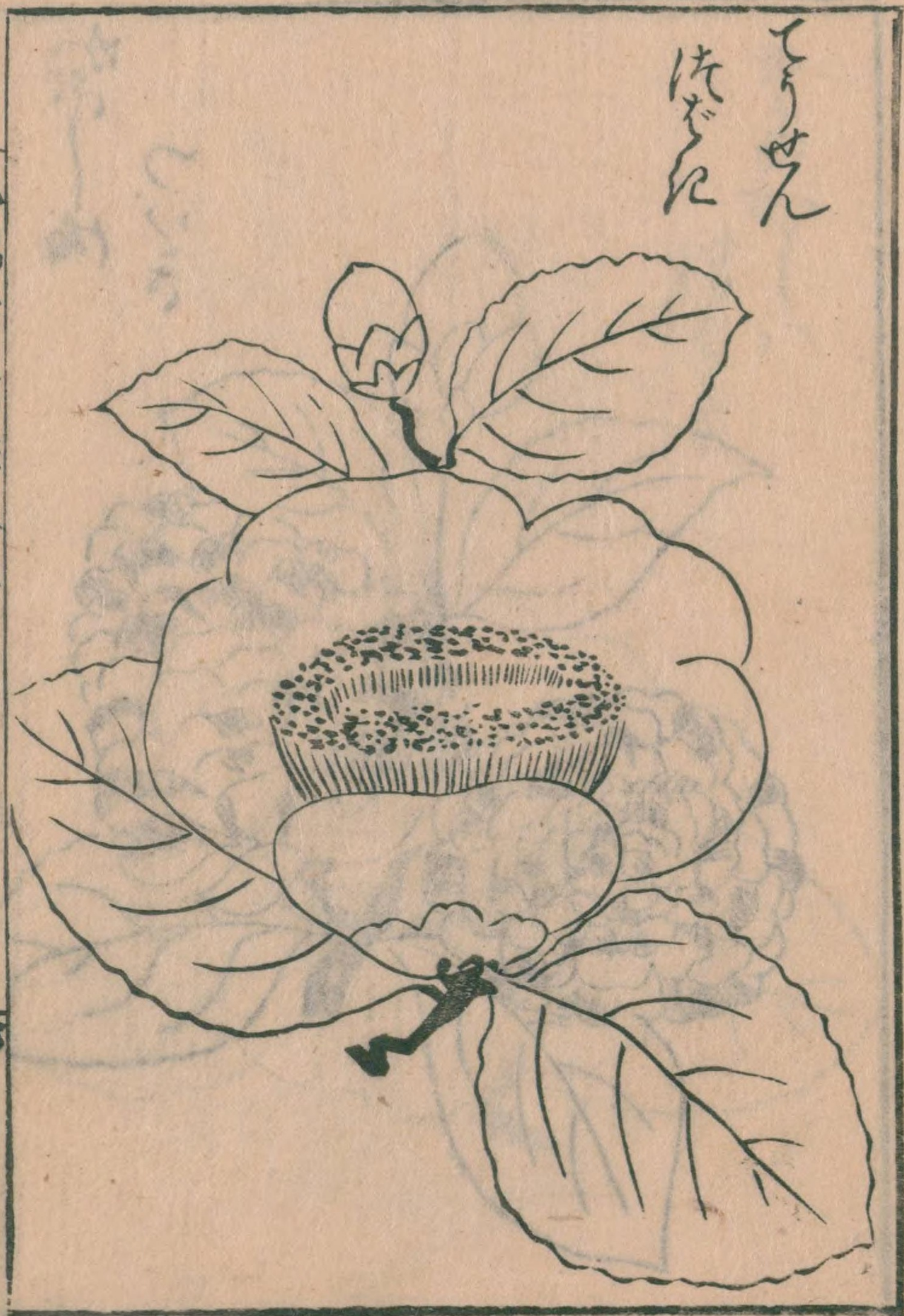
あつらひのてしにきり
 花もあつて六月末に花
 するし即ち花の咲く
 花に咲くとつれなき
 ものし花多し出枝に
 花多し咲

一本はくち家長と
 せしや花利

濱はまが 甚花あり

花むくげのてし
 中ききうらんなど
 一日にて花はむくげ
 又の六月より七月
 花も咲くはむくげ
 花多し咲





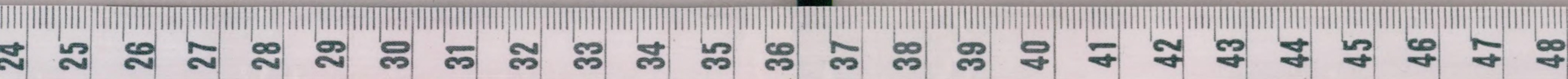
てうせん
はごり

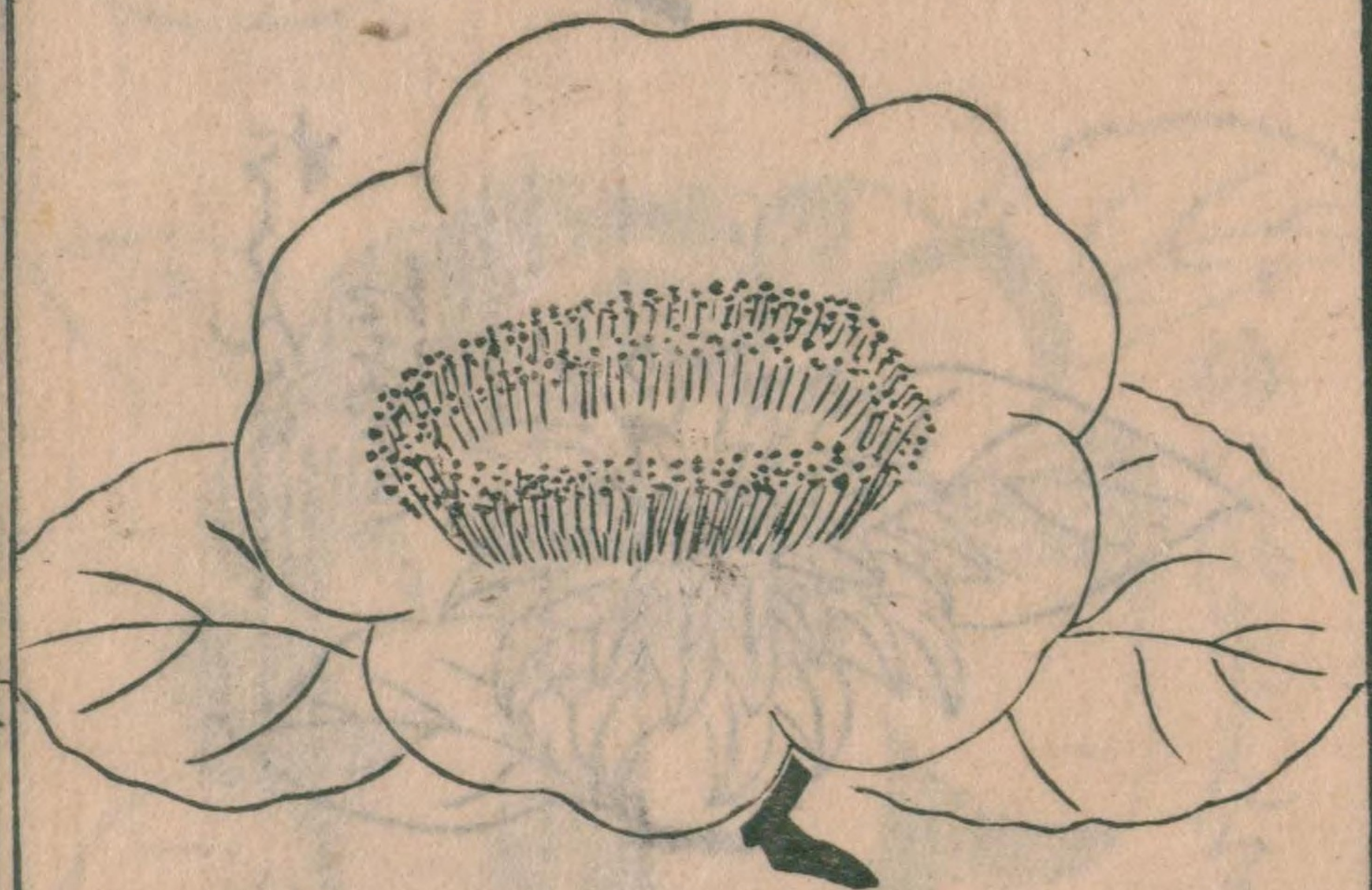


若木ふぐん様

女秋ふぐのどく紫多々

まごり花がー

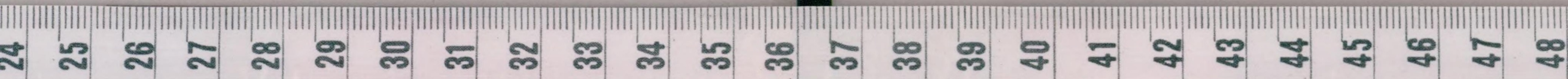


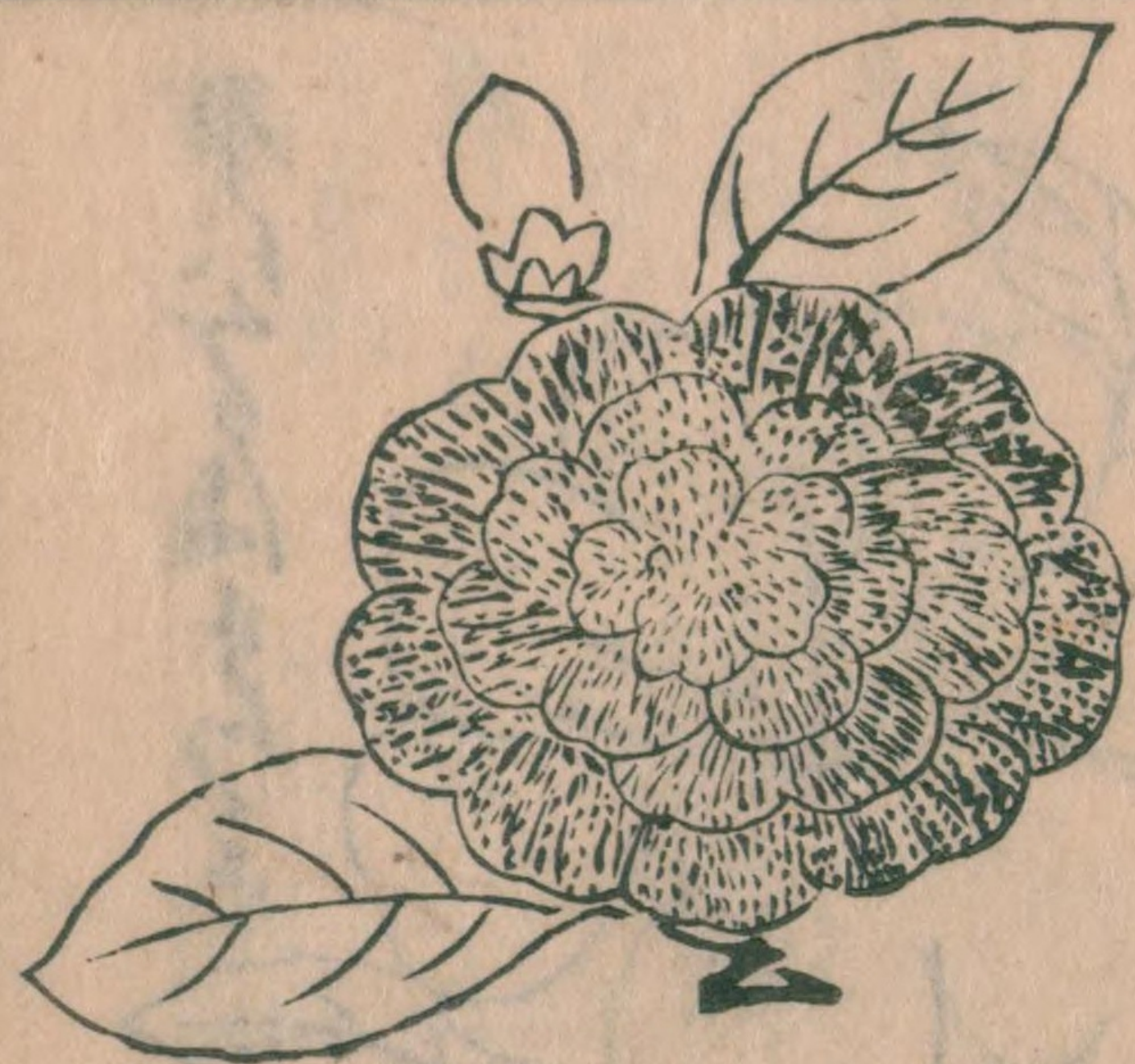


きぬがし
はな



かぶら
はな





あしはらつば



梅の風きんぎょ



おらんぎょ
白きんぎょ



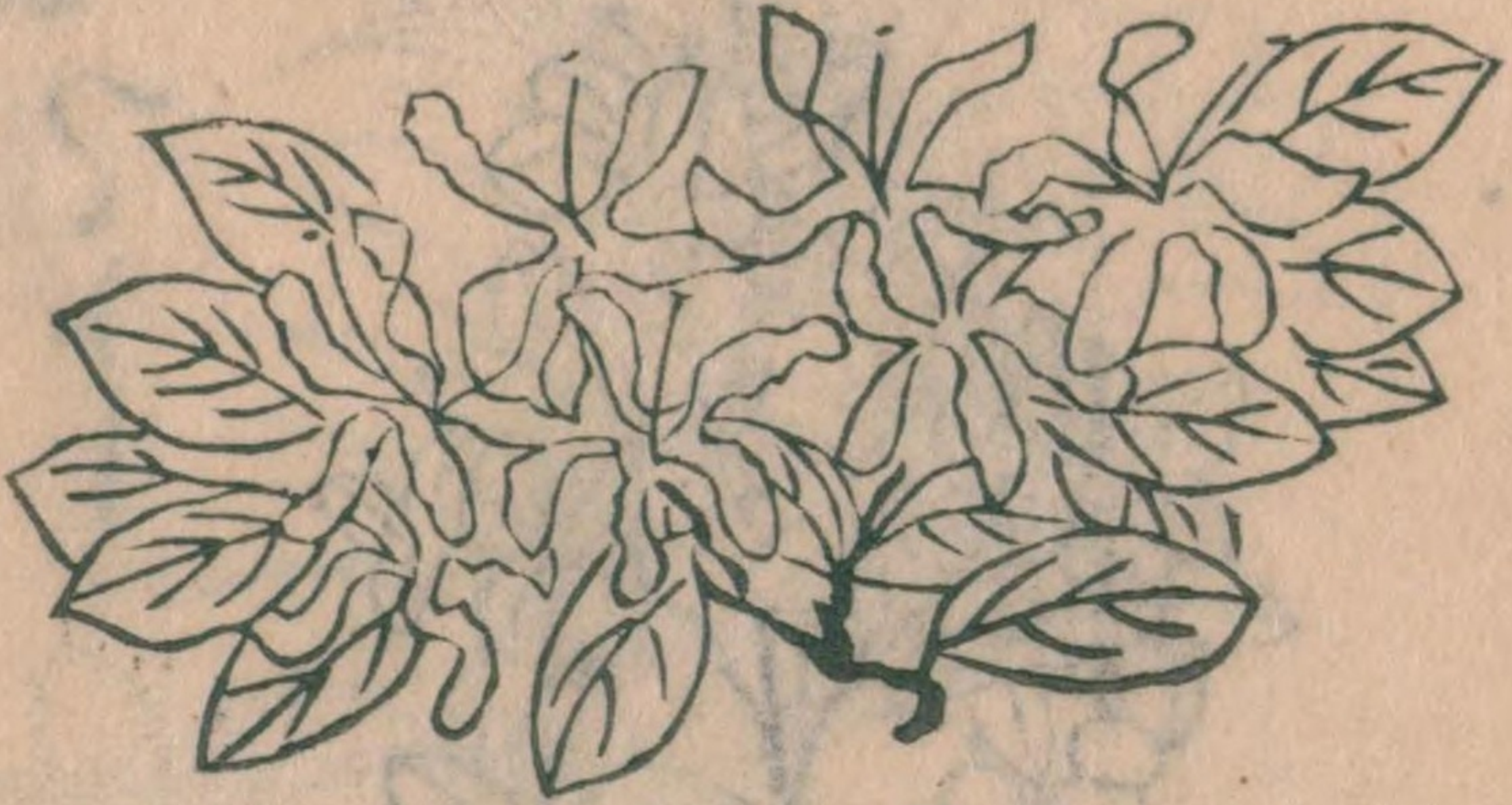
おらんぎょ
紅きんぎょ



国立国会図書館 請求記号 851-5
タイトル『広益地錦抄 8巻』

ガラス使用

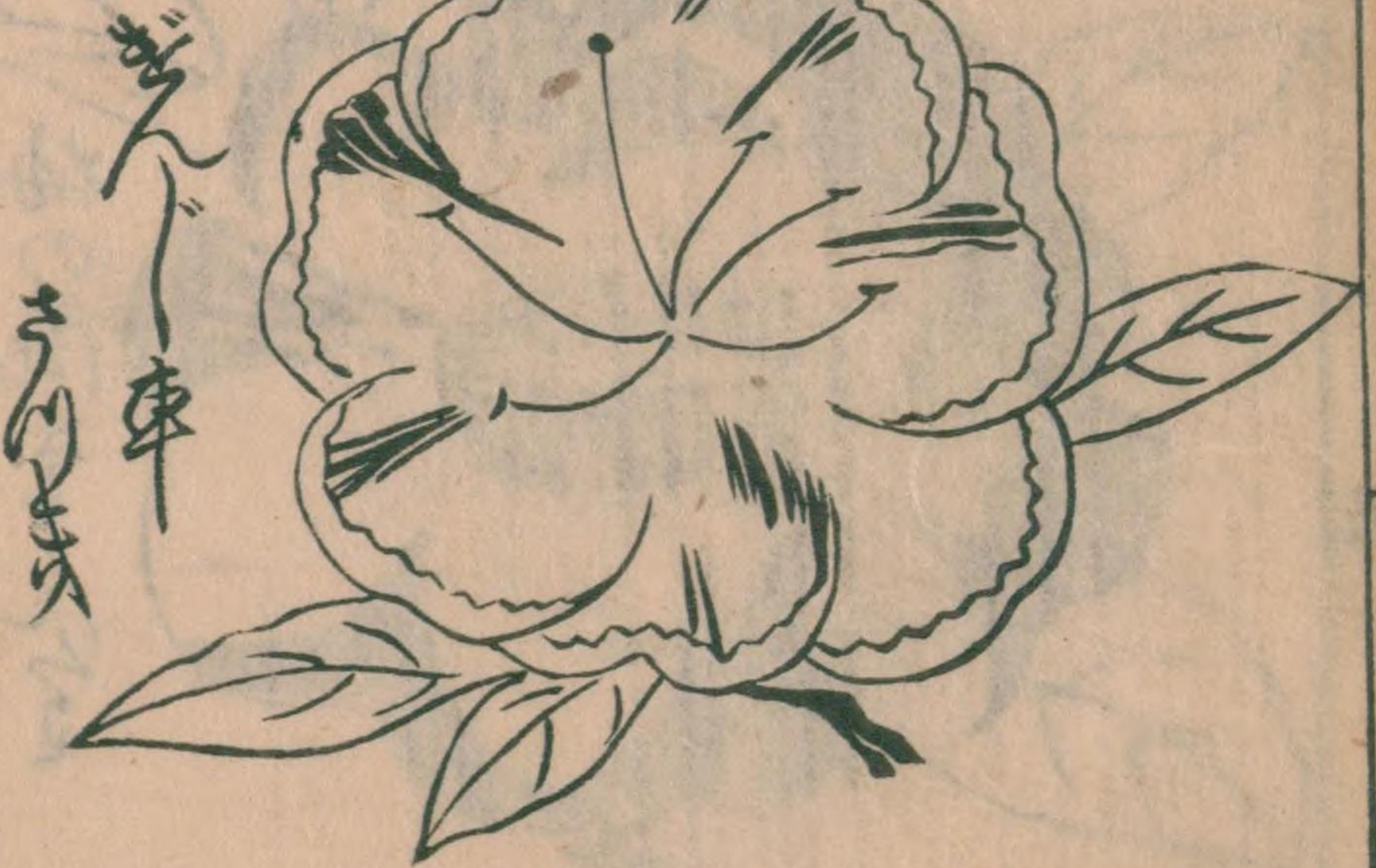
かたしもの
落葉の後
あしとみ
くのとく
にありとあ
きりけれ
まかぬ



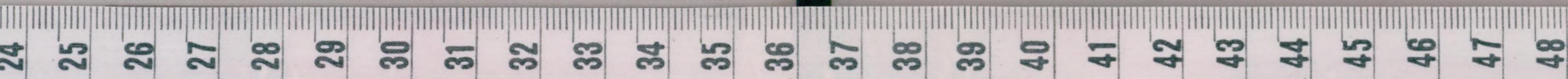
かたしもの
あしとみ



かたしもの
あしとみ



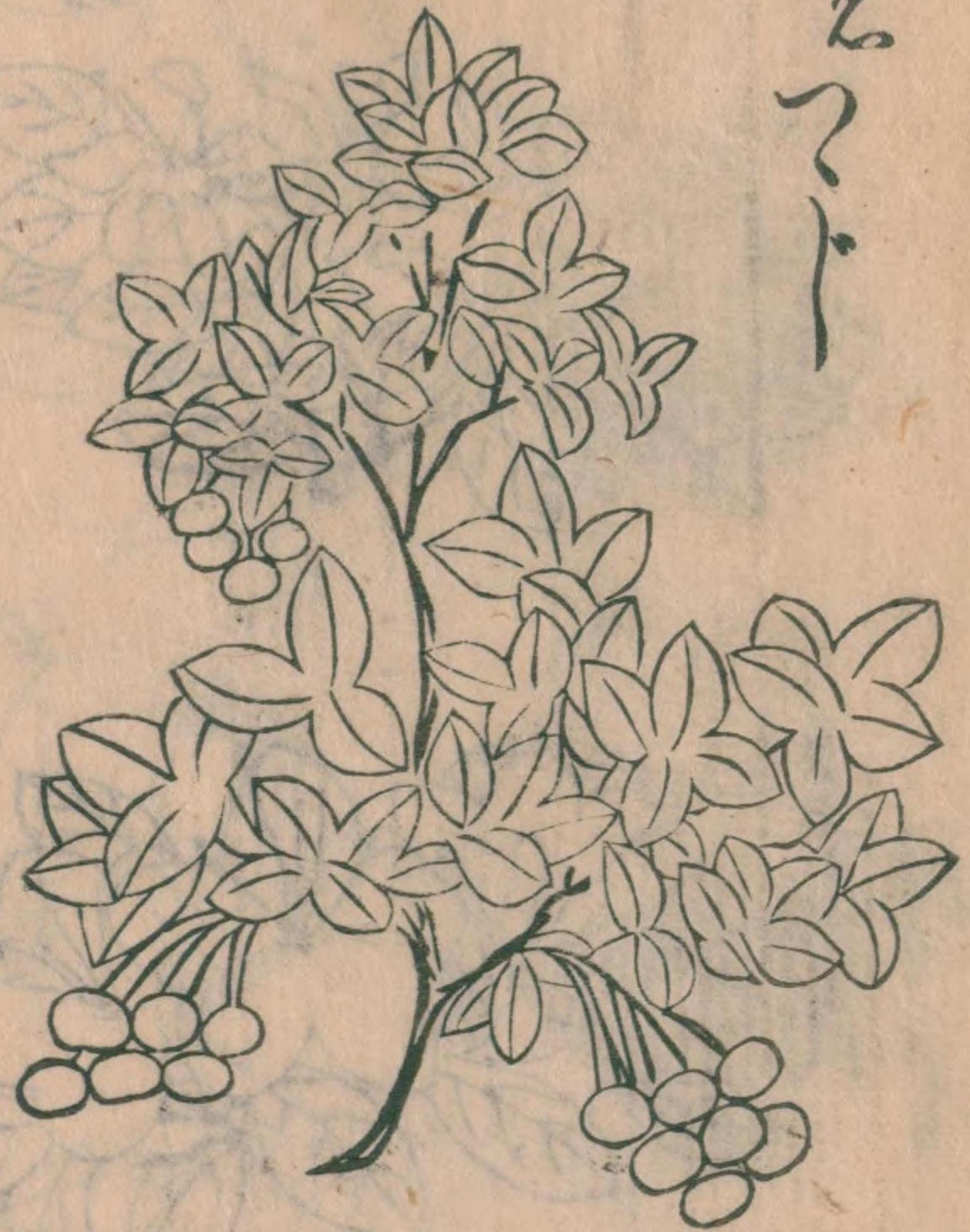
かたしもの
あしとみ

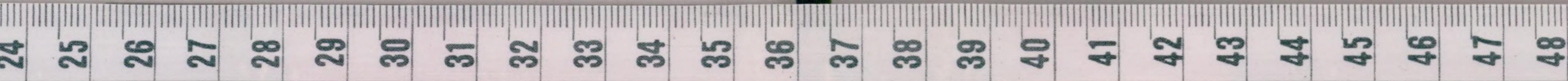


打んさん
さき



中一
か
た
つ
と





国立国会図書館 請求記号 851-5
 タイトル 『広益地錦抄 8巻』

ガラス使用

地錦抄付録卷三

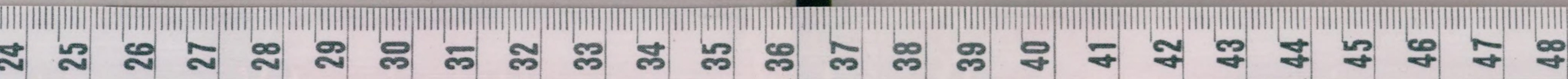


今銀花



今銀花

地錦抄付録卷三



国立国会図書館 請求記号 851-5
 タイトル 『広益地錦抄 8巻』

ガラス使用

ちりぢ



唐より渡り来る花本家何れも其の時より渡りた
 るはあつと正保年中以後来るものなり記流す牡
 丹芍薬梅橘等花本家花の一本一葉一つは渡り来る
 を和物わくその実生をかりり花の好い好い
 庭よりあるありし今に花のどくく年々実生
 多く花葉よりくるもの各々名花よび花葉より
 多く花葉の地錦抄大全に名記して凡二千首
 二十有余品の中絶なく種株せば万歳も多うわじ
 多葉花種も花ざらふれしと大花と小葉に
 花ざらふ三葉のつれ花とて花葉花実かりし



国立国会図書館 請求記号 851-5
 タイトル 『広益地錦抄 8巻』

ガラス使用

花開く人を眺むればわづらひきつて後の人又なほを前
人花はさきよきよとの人花はさきよきよ今も花はさきよ
捨つるも後人種てんく花はさきよきよ一石花は
比波りある花中絶してと又後の人も見えて今
れ人種まごつてさきよきよ一但し萬世空しくか
花があるは花はさきよきよと母好むといふまでも
よ花はさきよきよとさきよきよ花はさきよきよ
衆目のなる花はさきよきよ一今も見るに牡丹菊も
実生に花はさきよきよとさきよきよ花はさきよきよ
他の心を愛と憐れあつて自後後世にそ花の好む

いふごとくは花はさきよきよ人又我ら花はさきよきよ
いふ言はさきよきよの人は又花はさきよきよは
別花はさきよきよの心はさきよきよを花はさきよきよ
やとれ実生に花はさきよきよとさきよきよ花はさきよきよ
月の花はさきよきよの甲下すまきよきよと人種まごつて
と花はさきよきよの愛美にあつてはさきよきよの威光を
花はさきよきよの好むと花はさきよきよの好むと花は
にさきよきよの花はさきよきよの花はさきよきよの花は
羅山布鳥花はさきよきよの花はさきよきよの花はさきよきよ
花はさきよきよの花はさきよきよの花はさきよきよの花は



国立国会図書館 請求記号 851-5
タイトル『広益地錦抄 8巻』

ガラス使用

牡丹も茶菊等も花壇のよ相産するは毎年入る
吟味ししと牡丹を花よく野さししと大いん
印しと牡丹の根を干しとあそびと牡丹の根を
牡丹も牡丹の根を干しとあそびと牡丹の根を
と各別するしと牡丹と牡丹と牡丹と牡丹と
牡丹も牡丹の根を干しとあそびと牡丹の根を
牡丹も牡丹の根を干しとあそびと牡丹の根を
牡丹も牡丹の根を干しとあそびと牡丹の根を

牡丹も茶菊等も花壇のよ相産するは毎年入る
吟味ししと牡丹を花よく野さししと大いん
印しと牡丹の根を干しとあそびと牡丹の根を
牡丹も牡丹の根を干しとあそびと牡丹の根を
牡丹も牡丹の根を干しとあそびと牡丹の根を
と各別するしと牡丹と牡丹と牡丹と牡丹と
牡丹も牡丹の根を干しとあそびと牡丹の根を
牡丹も牡丹の根を干しとあそびと牡丹の根を
牡丹も牡丹の根を干しとあそびと牡丹の根を



△正保年中以後渡来草木類

散丹花

正保の初めに渡りし中絶の散丹花は僅かに存す
多入持花と葉肉の中絶して又を存す

○三修花丸

南京梅 今云臘梅

一琉球躑躅

茶蘭

一櫻桐竹

摩訶曼珠 燈今金

一風車

玫瑰

一らりご

旁地花トー薩州

一蓮玉

あんどやぶる

今云おらんたせとちくの敷に植へん
交石竹の各別の花を大甲んまで
花散おむやうなりおらんたは後よ
液る

菊 五種

醉楊妃

御愛

玉牡丹

鵝毛

太白

けふ初めの菊一度にありし

△寛文中渡品

扶桑花

○佛桑花丸

琉球よりある花を寛文初めを存す
中絶して又享保八年のあり



黒船法カクフト

一何々せいたう

老カラ法ホウト

一何々せん

大オホきんキント

一からんぞ石竹

△延寶年中渡品ニホウネンチュウワタリモノ

唐タウ桐キウ 今云イマイハ緋ヒ桐キウ

一何々ゆり 對馬

玉ギョウ蘭ラン花ハナ 今云イマイハ大山オホヤマ

一何々もも

秩チキ百ヒャク合カウ草ソウ 薩陽サツヤウ

一朝イチヤウ鮮セン笠カサゆり 對馬

唐タウ椿ツキ

一朝イチヤウ鮮セン椿ツキ

柘シキ椿ツキ

今柘のいろくのを様、和物にてあましく物
う大和なまに天衣の御時白糸の様をさす
まんの所の初めういぬ白いとくやあましくあま
鳥丸まの廣の百種家席には比せういぬ多
くあましくういぬとあ別 唐様を延寶に
あま

小コ念ネン仙セン翁ウウ花ハナ

正保小あう申結マシムスト又享保の
くクトトあアまマしシムムスス

△天和貞享年中來品テンワテイキョウネンチュウライモノ

美ビ人ニン蕉セウ

一千セン日ジツ紅ベニ

岩ガン石シタマ蘭ラン

一るニかり

柘シキ南ナン天テン

一めんげんメンゲント今イマあアまマしシムムスス

也錦抄分録卷三

十八



国立国会図書館 請求記号 851-5
タイトル『広益地錦抄 8巻』

ガラス使用

曼陀羅花 今云朝鮮物なり

△元禄年中來品

天然蓮花

一木樨子

椿樹

今云とんちん

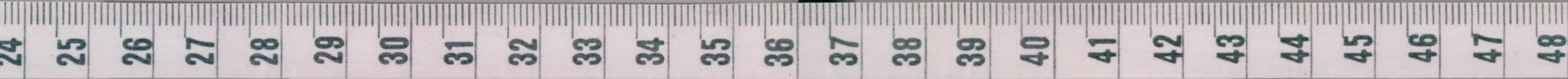
一雪持草

和名多にきき小幡万福寺に中華よりあるを
年傳之樹と所に多し一も榮枝少付てあ對
ともあつて山中にあり一も食へる香氣の
り花より實が一一も直あると根より苗
多く生る甚繁也一一中一一數年の内一本

さぬる廣地は樹より新材とす一一莊子曰有夫
椿云者以テ千歳為春八千歳為秋也又曰一本削
りて木同より器材とす一一本邦小古木椿と
はたつとす一一和名抄は椿は誤
とツバキト訓むツバキハ山茶花なり 椿はあつて
又山茶花の條下とす一一身と傳ふといふは茶花
月とハ伝ふに花あつて葉茶葉人のごとくして春に
月花開くを椿といふをいふはあつて一一葩
印つとす實とす一一のまゝとすハ九月花ひくを
山茶花といふは一一のまゝとすはせんといふ人

也錦抄附景卷三

下九



国立国会図書館 請求記号 851-5
タイトル『広益地錦抄 8卷』

ガラス使用

形一と改く何の益あるまじく別立て寄し
るべしん和むまじ樹の本はを存あるゆへ人の
修成すくまじや形は甚まき後びくおも
お遠か一枕を家室の材ふるべくともんはる
む才一筋の刃にきんは本新ありくうり
悪友悪友候ぐとく悪友ありく家也男女
改病を候と病別の者も吐と隣家の者も
舞を舞ぐ又白き釜は湯にがしく菓茶や
一く香保あり一は事園史む出くとも
書り松麻鶴豚皮物多合守の脾胃ふはさ

わりのび一けり成奥き人ありは
む是に莊子少のあ屋の刃ありし指柳と
やむとそそ釜は唇へは爛あをと喫い人
くね強するりりとり一くやんは石材
のありき子暴らふ敷本るるべくともおも
の後よ海より多の妙く地を費とわりぬき
捨てる飯多人乞食の族ありて収び集あり
落花生
△寶永正徳年中來品
一珊瑚菜



国立国会図書館 請求記号 851-5
タイトル『広益地錦抄 8巻』

ガラス使用

立泉花

一 諸葛菜

△ 享保年中來品

時計草

享保九年にあり

南京柘榴

享保九年にあり

大和なる多しお解ぎくろしあり交うり冬ま月
を造くたさくとりぬふちやは茶くうりさ
中く武白ハ享保九年の比初くあり小あしそ花を
咲く人のるるあり

唐楓

一 甘蔗

地錦抄附録卷之三終

地錦抄附録卷三

廿二終





東武江北漆井

撰著
自圖

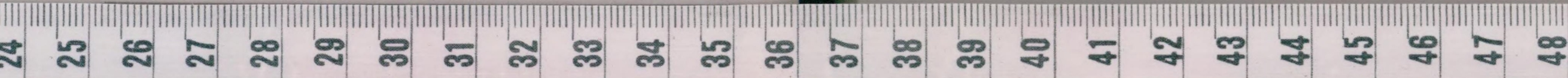
伊藤伊兵衛



享保十八年丑仲春

武江日本橋南一町目

須原屋茂兵衛開板



国立国会図書館 請求記号 851-5
タイトル『広益地錦抄 8巻』

ガラス使用



国立国会図書館 請求記号 851-5
タイトル『広益地錦抄 8巻』

ガラス使用